

# 総合的な診療能力を身に付ける 研修プログラムや特訓ゼミを提供

## 「若手医師教育研修立県いばらき」の取り組みとは

茨城県では県内の大学病院や地域基幹病院と一体となり、

総合的な診療能力を身に付けたいと考えている若手医師に、さまざまなプログラムを提供している。

この9月から来年にかけて、国内外のエキスパートによる「総合診療を学ぶ特訓ゼミ」を3回にわたり開催するほか、来年2月に開くシンポジウムでは、

県内の医療・科学の“知財”ともいえる医師や研究者がシンポジストとして壇上に立つ。

さらに、県内3病院群が核となって「茨城総合診療医研修プロジェクト」というユニークな後期研修を立ち上げた。

動き出した「若手医師教育研修立県いばらき」の姿を紹介しよう。

「筑波研究学園都市での医療分野の最先端の研究、県内医療機関に所属する総合診療や在宅診療のトップランナー、全国トップレベルの質を誇るチーム医療など、茨城県には若手医師の教育研修を行う“資源”が豊富にある。医療機関も医師個人も、若手医師の育成に熱い心を持って取り組んでいる。こうした熱気を、若い医師や医学生の方々に伝えたい」

茨城県地域医療支援センターのセンター長、土井幹雄氏は、おだやかな語り口の中に、力強い思いが覗く。

### 「特訓ゼミ」の総合監修は 日本を代表する総合診療医 である徳田医師

同センターは、若手医師が地域医療に従事しながら、夢や希望を持ってキャ

リア形成できる環境づくりを目標に、昨年4月に発足した。掲げたスローガンは「若手医師教育研修立県いばらき」。

その目標実現のために、2013年は「総合診療を学ぶ特訓ゼミ」「総合診療医のあり方を考えるシンポジウム」「茨城総合診療医研修プロジェクト」の3本柱に取り組んでいる(図参照)。いずれも、総合的な診療能力を身に付けたいと考える若手医師や医学生を対象にしたものだ。

中でも、特訓ゼミはこの9月から3回シリーズで開催される新しい取り組みだ。第1シリーズが9月に開催され、11月に第2シリーズ、来年2月に第3シリーズが予定されている。この特訓ゼミは、NHKテレビ番組「総合診療医ドクターG」で



欧州で医療機器として認証された「ロボットスーツHAL」  
それにより、EU全域で医療機器としての販売が可能となった。現在、国内での臨床に向けた臨床試験が行われている



「いばらき中性子医学研究センター」に設置された加速器を披露する。筑波大学附属病院副院長の松村明教授(左)と同大学の熊田博明准教授(右)



「医師としてのやりがいは、診療だけでなく、地域づくりにある」と生いき診療所ゆうき院長、寛井康之医師

もお馴染みの、総合病院水戸協同病院の徳田安春氏が総合監修を務めている。ゼミでは、臨床推論能力を高め、世界に通用する臨床医への道筋をつけることを目指す。

茨城県内の拠点病院の指導医だけでなく、全国から総合診療医、家庭医の指導医が、とっておきの症例を持ち寄り、それをもとに「地に足の着いた実践力指向型の、それでいて比類のないゼミ」(徳田氏)が行われる。第2シリーズでは、臨床推論の第一人者であるDr.Gautam Deshpande、(元ハワイ大学Hospitalist)、エベレスト登山医学の権威、Dr. Richard Birrer (Saudi Aramco Medical Services Organization executive director)が来日し、世界水準の講義、ワークショップが行われる。

ゼミはいずれも2日間の日程で、初日の夜には夜なべカンファレンスや情報交換会が催され、文字通り、国内外の医師や医学生の出会いと交流の場にもなる。なお、県外からの特訓ゼミの参加者には、旅費の一部が支給される。

また、第3シリーズの2日目には、2本目の柱である「総合診療医のあり方を考えるシンポジウム」が開催される。このシンポジウムでは、筑波大学が臨床応用に取り組んできたBNCT(ホウ素中性子捕捉療法)を活用した最先端の

ん治療、ロボットスーツHAL<sup>®</sup>を活用したりリハビリテーション支援、在宅医療で全国的に有名な医師の講演など、最先端医療から総合診療、地域医療に至るまで、茨城県が世界に誇る医学、科学の研究者や臨床医が勢ぞろいする。JAXAや国連で活躍する宇宙飛行士の記念講演も計画しているという。

### 県内病院を横断する研修体制で 総合的な診療能力を磨き上げる

「若手医師教育研修立県いばらき」の3つ目の取り組みが、後期研修としての「茨城総合診療医研修プロジェクト」である。

これは、県内の臨床研修指定病院が個々に行ってきた研修プログラムを、病院の枠を超えて横断的に組み上げ、立地や患者背景の異なる複数の病院群で、幅広い臨床経験を積むことを目的にしたプロジェクトだ。

具体的には、県立中央病院、筑波大学附属病院、日立総合病院の研修プログラムを核として、それらのプログラムの協力拠点病院となっている石岡第一病院、県立こども病院、東京医科大学茨城医療センター、筑波メディカルセンター病院、総合病院水戸協同病院など県内の地域拠点病院の指導医が一丸となって、後期研修の指導に当たる。

各病院の強みや持ち味をもらさず学べる画期的な研修プログラムである。

土井氏は「世界に通用する、総合的な診療能力を持った医師を育成したい」と語る。

### 若手医師の海外研修の機会を 県と筑波大学で提供

茨城県地域医療支援センターでは、これまでも若手医師の支援事業を行ってきた。その一つが、県内全ての若手医師に開放されているセミナーや自主的な取り組みに対する助成事業だ。

BLS、ACLSの受講助成、センター主催のPTLS講習会やJMECC講習会、マン・ツー・マンでのエコーハンズオントレーニング、医師会や診療所と連携した大子宿舎や通年での地域医療研修会など、若手のうちに学ぶべき様々な知識や経験を得る機会を提供している。また、指導者向けのJMECC講習会や指導医シンポジウムなど、指導者側の研鑽機会の確保にも余念がない。

近年では、水戸周辺の中核病院が連携して組織した「NPO法人水戸若手医師を育てる会」が、県の助成を受けて、先進的な講座、医療連携の推進に取り組んでいる。

さらに見逃せないのが、修学資金の貸与を受け、医師不足地域で働く若

手医師のキャリア形成支援だ。地域医療支援センターでは、30名近い指導医スタッフが、かれらの「無限の可能性」をキーワードに、万全の支援体制を敷いている。「修学生医師には、義務明け後には、その能力を、地域や世界、あらゆるところで存分に発揮して欲しい」と土井氏。

世界の医療に触れられる機会も提供されている。それが「若手医師のための海外研修派遣制度」である(表2参照)。

地域医療支援センターでは、筑波大学と連携し、県内の医療機関に勤務する若手医師であれば、筑波大学の医局員でなくても海外で研修できる制度を設けたのである。

これまで述べてきたような、若手医師に対するキャリア形成のさまざまな手厚い支援に、県ぐるみで取り組む例は珍しい。土井氏は「特訓ゼミやシンポジウムに参加して、茨城県の熱意を肌で感じてほしい」と語る。「そうした取り組みを知ってもらい、茨城で研修したい、茨城で研修して良かった、と思ってほしい」と期待を抱く。「若手医師教育研修立県いばらき」は大きな一歩を踏み出した。

表1 総合診療を学ぶ特訓ゼミの講師陣

特訓ゼミ第1シリーズ	特訓ゼミ第2シリーズ
<p>■臨床推論8講義員 (ファシリテーター：総合病院水戸協同病院、徳田安春氏) 吉林大学・高谷健氏 病理診断センター・知念寛也氏 大田西ノ内病院・成田健氏 聖路加国際病院・今野健一郎氏 国立大医局センター・松本孝太郎氏 総合病院水戸協同病院・小林裕幸、金井貴夫、木下賢輔氏</p> <p>■総合診療特別プログラム ・特別講演「総合診療専門医認定のゆくえ」 筑波大学附属病院、前野智博氏 ・分科会集中セミナー 生いき診療所ゆうき院長、寛井康之氏 茨城県立中央病院、関藤元氏 水戸済生会総合病院、藤本利也氏 日立製作所ひたちなか総合病院副院長、山内孝典氏 ・特別講演「医学を総合的に学ぶ、医療を総合的に考える」 茨城県立中央病院 院長、永井秀雄氏</p>	<p>■特別講演「臨床推論の本質とは」(仮) Dr. Gautam Deshpande ■ワークショップ 1) Dr. Gautam Deshpande 総合病院水戸協同病院、徳田安春氏 2) 茨城県立中央病院呼吸器チーム、松本孝之氏、 小林裕二氏、清嶋謙之氏ら ■3) 総合南東北病院消化器センター長、西野達之氏 特別講演「エベレスト登山医学」(仮) Dr. Richard Birrer Dr. Richard Birrer、徳田安春氏、小林裕幸氏、金井貴夫氏</p> <p>■詳細は、 <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/wakateishi/seminar.html">http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/wakateishi/seminar.html</a> ※当日は茨城空港からの送迎(有料)</p>

表2 若手医師のための海外研修派遣制度

<ul style="list-style-type: none"> <li>県内若手医師が安心して海外研修を行える機会を提供</li> <li>海外研修のノウハウを持つ筑波大学に窓口を設置</li> <li>筑波大学の医局員でなくても海外へ派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外の病院で臨床教育研修プログラムを提供</li> <li>帰国後1年以上県内医療機関に勤務</li> <li>研修期間は1〜3か月、年間5人を派遣</li> </ul>
--	--

図 茨城県の若手医師育成の3大プロジェクト

**総合診療を学ぶ特訓ゼミ**

- 総合病院水戸協同病院・徳田安春氏が監修
- 国内外のエキスパートが症例をもとに研修
- 世界に通用する臨床推論の能力を身に付ける
- 国内外の指導医、若手医師、医学生との交流の場
- 県外からのゼミ参加者には旅費を支給
- 開催日/会場

第1シリーズ：2013年9月28日(土)～29日(日)  
大洗シーサイドホテル

第2シリーズ：2013年11月2日(土)～3日(日)  
茨城県教育研修センター

第3シリーズ：2014年2月15(土)～16日(日)  
茨城県教育研修センター、つくば国際会議場

**総合診療医のあり方を考えるシンポジウム**  
～最先端の医療から最先端の在宅医療まで～

- 茨城県が世界に誇る医学、科学の人材が講演
- 総合診療、地域医療から最先端医療まで
- ロボットスーツHAL<sup>®</sup>によるリハビリ
- BNCTを活用した最先端のがん治療など
- 開催日/会場

2014年2月16日 つくば国際会議場  
(特訓ゼミ第3シリーズの2日目プログラムと共通)

**茨城総合診療医研修プロジェクト**

- 県内3病院の後期研修プログラムを核に、相互乗り入れし、病院の枠を超えた横断的な指導体制
- 県立中央病院の「茨城県立病院群家庭医療後期研修プログラム「かさま」」
- 筑波大学附属病院の「つくば家庭医・病院総合医プログラム」
- 日立総合病院の「日立総合病院後期研修プログラム：総合診療・家庭医療分野」
- 病院では総合診療医、地域では家庭医として活躍できる医師を、全国屈指の指導医が一丸となって育成

**問い合わせ先**

茨城県地域医療支援センター (茨城県保健福祉部医療対策課内)  
〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978番6 TEL:029-301-3191 FAX:029-301-3199  
E-mail: ldoctor@pref.ibaraki.lg.jp

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html> 茨城 地域医療